

評価機構

2019

7

月号

NEWS LETTER

特 集

信頼できる診療ガイドラインの さらなる活用を目指して

～EBM普及推進事業（Minds）の最新トピックスと今後の展望～



人の安心、医療の安全 JQ
公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

病院機能改善支援セミナー【総合】を開催 (評価事業推進部)

評価事業推進部では、病院機能評価の受審支援の一環として「2019年度 第1回病院機能改善支援セミナー【総合】」を開催しました。大変多くの方にお申し込みいただき、約350名の方々にご参加いただきました（日本医師会館）。

セミナーでは、当機構常務理事の橋本廸生より「3rdG:Ver.2.0の概要」及び、各領域のサーベイヤ（診療・看護・事務）から「3rdG:Ver.2.0の項目体系のポイント」について説明を行いました。また、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院からは、病院機能評価の受審準備の体験談をご発表いただきました。

セミナーを通じて「受審に向けた課題が明確になった」「病院機能評価について深い理解を得られた」という感想を数多くいただきました。

当セミナーの今後の開催予定は以下の通りです。詳細は病院機能評価事業のホームページのイベントカレンダーをご覧ください。

<2019年度病院機能改善支援セミナー【総合】開催スケジュール>（予定）

【第2回】日時：2019年10月10日（木）10：30～15：45

会場：JR九州ホール（福岡）

【第3回】日時：2020年1月16日（木）10：30～16：00

会場：新大阪ブリックビル3階会議室A+B+C+D（大阪）

「満足度・やりがい度 活用事例集」のご案内 (評価事業推進部)

患者満足度・職員やりがい度 活用支援プログラムでは、満足度調査における病院の取り組みをセミナー等のご講演者にご執筆いただいた小冊子「満足度・やりがい度 活用事例集」を病院機能評価事業ホームページに公開しています。

病院の体制や工夫、苦労した点などを写真や図表を用いてご紹介いただいています。患者満足度・職員やりがい度調査の結果を活かした改善活動の好事例としてぜひご活用ください。

「満足度・やりがい度 活用事例集」公開 URL

<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/support/satisfaction/case/>

なお、本プログラムは通年で参加病院を募集しております。

参加病院には、満足度調査の支援システムや、改善に役立つセミナーを提供しております。プログラム詳細については、病院機能評価事業のホームページをご覧ください。

<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/support/satisfaction/>



医療クオリティ マネジャー認定・更新制度の開始 (教育研修事業部)

病院で医療の質の改善活動に関わる方々を対象とした“医療クオリティ マネジャー（QM）”養成セミナーを2012年度から毎年継続して開催しております。このセミナーの修了者は、本年3月末までに約970名に達しました。本年度からはセミナー修了後に病院で質改善活動を実践されている方を対象にQMとしての認定、さらに認定後3年毎に更新する制度を開始しました。セミナーの開催に留まらず、継続的な学習と医療の質の改善への支援を目指しています。

詳細は、評価機構のホームページをご覧ください。

<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/education/qm/>



認定マーク

転倒・転落予防の標語募集 (教育研修事業部)

認定病院患者安全推進協議会 検査・処置・手術安全部会では、これまで転倒・転落予防について、環境や薬剤による影響などの様々な側面から、情報提供や経験の共有を行ってきました。

医療者や患者が、日々の生活や業務のなかで、継続して転倒・転落の予防意識を高めるために、昨年度「転倒・転落予防の標語」を募集したところ、80病院から760句の応募がありました。優秀作品は本年3月の患者安全推進全体フォーラムにおいて発表・表彰いたしました。詳細は協議会のホームページでご覧いただけます。本年度も8月から9月に標語の募集をいたしますので、是非ご応募ください。応募方法は各病院の協議会担当者にお問い合わせください。



脳性麻痺事例の再発防止に資する論文の掲載 (産科医療補償制度運営部)

再発防止に資する情報提供の一環として専門的な分析を行う「再発防止ワーキンググループ」において取りまとめた論文が、電子ジャーナルサイトTaylor & Francis Onlineに掲載され、今後、医学誌のThe Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicineに掲載される予定です。本制度のホームページに研究概要を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

論文タイトル:「Obstetric factors associated with uterine rupture in mothers who deliver infants with cerebral palsy」
(子宮破裂によって脳性麻痺になった児の周産期因子に関する検討)

研究概要掲載先 (<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/>)
トップ画面「資料・報告書」内の「研究に関するお知らせ」
ー「研究結果一覧(当機構における研究)」



Mindsガイドラインライブラリ新規掲載 (EBM医療情報部)

EBM普及推進事業(Minds)では、診療ガイドラインや関連情報を紹介する「Mindsガイドラインライブラリ」を運営しています。2019年4月～5月は、10件の診療ガイドラインを新規掲載しました。

- 線維筋痛症診療ガイドライン 2017 (第2部～第3部)
- パーキンソン病診療ガイドライン2018
- 二分脊椎に伴う下部尿路機能障害の診療ガイドライン [2017年版]
- 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症診療ガイドライン
- ジストニア診療ガイドライン2018
- エビデンスに基づくIgA腎症診療ガイドライン2017
- エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)
- 診療ガイドライン 2017
- エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD) 診療ガイドライン2017
- エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン2017
- 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2017

Minds ガイドラインライブラリ
(<https://minds.jcqh.or.jp/>)



ぜひ「Mindsガイドラインライブラリ」にアクセスしてください。

信頼できる診療ガイドラインの さらなる活用を目指して

～ EBM普及推進事業 (Minds) の最新トピックスと今後の展望～

EBM医療情報部 部長
奥村 晃子

EBM普及推進事業 (Minds) [以下、「Minds」と示す] は、2011年度より厚生労働省委託事業として運営されています。本事業は、質の高い診療ガイドラインの普及を通じて、患者と医療者の意思決定を支援し、医療の質の向上を図ることを目的としています。Mindsは、①診療ガイドライン作成支援、②診療ガイドライン評価選定・公開、③診療ガイドライン活用促進、④患者・市民支援を事業の4つの柱とし、診療ガイドラインデータベース「Mindsガイドラインライブラリ (<https://minds.jcqhc.or.jp/>)」を運営し、インターネットを通じて、誰もが無料で診療ガイドラインや一般向けの解説を閲覧できる環境を用意しています。今回は、Mindsの最新トピックスをご紹介します、今後の展望についてお知らせします。

1. 診療ガイドライン作成支援：GRADE Centerの設置

診療ガイドライン作成において世界的に広く受け入れられているのがGRADE (The Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation) アプローチです。これは推奨を作るにあたって、エビデンスの質と益と害のバランスなどを系統的に評価する方法です。国内外の主要な学会や学術組織・機関 (WHO, Cochrane, NHS, AHRQ等) が標準的な手法として採用しています。

Mindsでは2016年度より診療ガイドライン作成支援にGRADEアプローチを紹介し、セミナーなどを開催してきました。この実績が評価され、2019年3月に当機構内に日本初のGRADE Center、“Minds Tokyo GRADE Center”を設置することが承認されました。2019年5月現在、GRADE Centerは米国、カナダ、ドイツ、スペイン、オーストラリア、中国等の世界各地に13センターが設置されています。

Mindsは、今後も国際的ネットワークを活用し、質の高い診療ガイドライン作成を支援するプログラムの充実を図っていきます。診療ガイドライン作成マニュアルの改訂やセミナー・ワークショップの開催、作成相談等の事業をより一層強化します。本年7月には、Mindsガイドラインライブラリ内に、“Minds Tokyo GRADE Center”のページを公開する予定です。

2. 診療ガイドライン評価選定： スクリーニング基準の見直しと公開前評価の導入

Mindsでは、2011年度より、日本で作成・公開された診療ガイドラインの網羅的検索と系統的評価を行い、それらの結果をもとに診療ガイドラインデータベースを構築してきました。2018年度には診療ガイドライン評価選定におけるスクリーニング基準の見直しを検討し始め、本年4月より新たな基準の適用を開始しました。具体的には、診療ガイドライン内に、文献検索方法、推奨作成方法、利益相反に関する記載がないものは、診療ガイドラインの基本要件を満たしていないとみなされ、評価対象からは除外されることになります。

また、2018年度には、診療ガイドラインの公開前評価を試行しました。公開前評価とは、Mindsによる評価を診療ガイドラインの公開前に行うことで、公開直前の見直しに活かすことを可能にするものです。2019年度からは、診療ガイドラインの公開前評価を本格的に開始します。(参照：Mindsガイドラインライブラリ「公開された診療ガイドラインの評価・選定・掲載方法」https://minds.jcqhc.or.jp/s/about_us_evaluation_method)

3. 診療ガイドライン活用促進： 活用事例紹介と有効性評価に向けた検討

作成された診療ガイドラインは、広く普及し医療現場で患者と医療者の意思決定支援に活用されなければなりません。またその結果として医療の質向上に寄与することも重要です。そのためにMindsでは、診療ガイドラインの活用促進に関する施策を重点的に行ってきました。

2014年度から、京都大学が実施するQIP プロジェクト (Quality Indicator/Improvement Project) と提携しMinds-QIPプロジェクトを開始しました。400を超えるQIP参加病院を中心に、診療ガイドラインの活用実態について多角的調査を行いました。昨年度は、診療ガイドラインの推奨遵守に関連する診療の質を示す指標 (Quality Indicator) [以下、QIと示す] を抽出し、2010年から2017年までの病院や疾患ごとの経年的変化パターンの可視化を行いました。さらに、診療ガイドラインの推奨事項を医療現場に取り入れるプロセスに関する多施設調査と個別病院への情報収集を実施しました。この取り組みは、昨年度に診療ガイドライン活用上の促進要因と阻害要因を踏まえた提言として「診療ガイドライン活用ガイド」にまとめられました。

(参照：Mindsガイドラインライブラリ「Minds-QIP (Quality Indicator/Improvement Project) プロジェクト」https://minds.jcqhc.or.jp/s/user_info_qip)

2016年度からは、診療ガイドラインの医療現場での活用の事例調査を開始し、昨年度までにMindsガイドラインライブラリ上に6件の活用事例紹介を掲載しています。

(参照：Mindsガイドラインライブラリ「診療ガイドライン活用事例紹介」https://minds.jcqhc.or.jp/s/user_info_case)

さらに今年度は、診療ガイドライン作成グループの中でも、その普及活用について先駆的な取り組みを行っている担当者が集まる検討会を立ち上げました。本検討会では、各グループが実践し

てきた診療ガイドラインの普及推進に向けた取り組みを共有しとめるとともに、診療ガイドラインとQIのあり方、診療ガイドラインの普及や遵守状況等の評価方法について検討を進めていく予定です。

4. 患者・市民支援：診療ガイドライン作成への患者・市民参加の促進

診療ガイドライン作成に、患者・市民の価値観や希望を取り入れる必要性があることは、国内外で広く知られるようになってきましたが、その具体的な方法は確立されていないのが現状です。

Mindsでは、2014年度に、診療ガイドライン作成に患者・市民参加を促進するための具体的な方法や患者・市民向けの情報提供のあり方を検討する専門部会を立ち上げました。2016年度には「『診療ガイドライン作成への患者・市民の参加』の基本的な考え方」（参照：Mindsガイドラインライブラリhttps://minds.jcqhc.or.jp/s/public_base_think）を公開し、2017年度には「患者・市民参加の手引き」とリーフレット、「患者参加の体験談」（参照：Mindsガイドラインライブラリhttps://minds.jcqhc.or.jp/s/public_base_think）を公開しました。現在は、患者・市民参加に向けたマニュアルの作成やワークショップの検討を進めており、今年度中の公開・提供を目指しています。

5. モバイルファーストを導入したホームページ改修

Mindsでは、Mindsガイドラインライブラリの利便性を向上するために、継続的にホームページのシステム改修を実施しています。近年、スマートフォンなどのモバイル端末からの閲覧がページビューの半数以上を占めるようになってきたことから、昨年度は、モバイルファーストの概念を導入した改修を行いました。今回の改修により、PCからの閲覧はもとより、モバイル端末からも閲覧しやすくなっています。（図1．および図2．を参照）

その他、検索機能の向上を図る改修など、今後も、Mindsガイドラインライブラリの機能を充実させ、利便性を向上する検討を進めていきます。



図1. Mindsガイドラインライブラリ
トップページ① PCでの閲覧画面



図2. Mindsガイドラインライブラリ
トップページ② モバイル端末での閲覧画面

[2019年以降に新たに掲載された診療ガイドライン一覧]

診療ガイドライン作成団体、出版社等のご協力のもと、2019年1月から現在までに、新たに28件の診療ガイドライン本文がMindsガイドラインライブラリに掲載されています。

ガイドライン名	Mindsガイドラインライブラリカテゴリ
がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン2017年版	[がん] [消化器]
がん薬物療法に伴う末梢神経障害マネジメントの手引き2017年版	[がん] [脳・神経]
血管炎・血管障害診療ガイドライン2016年改訂版	[心臓と血管] [皮膚・目・耳・鼻・のど]
歯科治療中の血管迷走神経反射に対する処置ガイドライン	[歯科・口腔]
自己炎症性疾患診療ガイドライン2017	[アレルギーと膠原病] [小児]
肝臓診療ガイドライン 2017年版	[がん] [消化器]
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の診療ガイドライン	[内分泌・代謝・血液] [女性の健康・妊娠・出産]
腎障害進展予防と腎代替療法へのスムーズな移行 CKDステージG3b～5診療ガイドライン2017 (2015追補版)	[腎臓・泌尿器]
科学的根拠に基づいた血小板製剤の使用ガイドライン	[がん] [内分泌・代謝・血液]
てんかん診療ガイドライン 2018	[脳・神経] [メンタルヘルス]
閉塞性睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置に関する診療ガイドライン (2017年改訂版)	[歯科・口腔] [呼吸器]
前立腺がん検診ガイドライン 2018年版	[がん] [腎臓・泌尿器] [検診・予防]
形成外科診療ガイドライン1 皮膚疾患	[皮膚・目・耳・鼻・のど]
形成外科診療ガイドライン2 急性創傷/瘢痕ケロイド	[皮膚・目・耳・鼻・のど]
形成外科診療ガイドライン3 慢性創傷	[皮膚・目・耳・鼻・のど]
形成外科診療ガイドライン4 頭蓋顎顔面疾患 (主に先天性)	[皮膚・目・耳・鼻・のど] [歯科・口腔] [小児]
形成外科診療ガイドライン5 頭蓋顎顔面疾患 (主に後天性)	[皮膚・目・耳・鼻・のど] [歯科・口腔] [筋・骨・関節]
形成外科診療ガイドライン6 頭頸部・顔面疾患	[皮膚・目・耳・鼻・のど] [歯科・口腔] [脳・神経]
形成外科診療ガイドライン7 体幹・四肢疾患	[皮膚・目・耳・鼻・のど] [筋・骨格・関節] [女性の健康・妊娠・出産] [小児]
線維筋痛症診療ガイドライン 2017	[筋・骨格・関節] [アレルギーと膠原病]
パーキンソン病診療ガイドライン2018	[脳・神経]
二分脊椎に伴う下部尿路機能障害の診療ガイドライン[2017年版]	[腎臓・泌尿器] [小児]
新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 診療ガイドライン	[消化器] [アレルギーと膠原病] [小児]
ジストニア診療ガイドライン2018	[脳・神経]
エビデンスに基づくIgA腎症診療ガイドライン2017	[腎臓・泌尿器] [小児]
エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群 (RPGN) 診療ガイド2017	[腎臓・泌尿器]
エビデンスに基づく多発性嚢胞腎 (PKD) 診療ガイドライン2017	[腎臓・泌尿器] [小児]
エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン2017	[腎臓・泌尿器]

今後も新たな診療ガイドラインが掲載されていきますので、ぜひご利用ください。

各イベントの申し込み方法、詳細については評価機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<https://jqcqh.or.jp/> 日本医療機能評価機構 ▶ ホーム ▶ イベント情報

イベント情報 7月～10月

月	日	イベント名	開催地
7	4・5	第1回 コオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)	東京
	13・14	医療対話推進者養成セミナー 基礎編B	東京
	25	医療安全文化調査 活用支援(試行) キックオフセミナー	東京
8	3・4	医療対話推進者養成セミナー 基礎編C	東京
	15・16	第1回 コオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)	東京
	21・22	医療対話推進者養成セミナー 基礎編D	東京
9	6	病院機能改善支援セミナー【事務管理】	東京
	11	患者満足度・職員やりがい度 活用支援セミナー	東京
	18	病院機能改善支援セミナー【一般病院3】	東京
	26	医療対話推進者養成セミナー 導入編2	東京
10	3・4	第2回 コオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)	東京
	10	第2回 病院機能改善支援セミナー【総合】	福岡
	18	2019年度 病院医療機能評価受審フォーラム	滋賀
	19・20	医療対話推進者養成セミナー 基礎編E	東京

患者安全推進ジャーナルのご案内 (教育研修事業部)

評価機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。No.56の特集は「インフォームド・コンセントを整えるー理想と現実のギャップを埋めるために」です。

バックナンバーの一部は、協議会のホームページで公開しています。

●会員病院 (毎号3冊を無料で送付いたします)

追加の冊数をご希望の方は、協議会のホームページより会員サイトにログインしてお申し込みください。会員価格は、1冊あたり1,000円＋税です。

また、毎回、一定の冊数の追加をご希望の場合は、予め追加冊数を1冊単位で指定していただく「年間追加購入」のお申し込みができます。10冊単位で年間追加購入をいただく場合は、最大50%の割引となります。

詳細は、協議会のホームページをご覧ください。

<https://www.psp-jq.cqh.or.jp/journal/>

●会員外の病院 (1冊あたり3,000円＋税)

評価機構のホームページ「出版・ダウンロード」からお申し込み下さい。

編集後記

評価機構では医療の質・安全に関する複数事業を展開しています。今号から各事業をトピックスとして取り上げて、評価機構の取り組みをわかりやすく発信してまいります。ご愛読よろしくお願い申し上げます。

医療安全情報の公表について (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業では、以下の医療安全情報を提供しました。

●No.150「病理診断報告書の確認忘れー上部消化管内視鏡検査ー」(5月)

●No.151「2018年に報告書で取り上げた医療安全情報」(6月)

詳細は、医療事故情報収集等事業のホームページをご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>



No.150 (1ページ目)



No.151 (1ページ目)

事業実績報告書および財務諸表の公開について (総務部)

2018年度の事業実績報告書および財務諸表をホームページで公開しました。

病院機能評価事業においては、2018年度の新たな取り組みとして、評価項目(3rdG Ver2.0)による審査、また、特定機能病院等を対象とした、病院のガバナンスの評価に重きを置いた「一般病院3」の審査も開始し、病院の更なる改善活動を推進しました。

2019年度は、新たな事業として厚労省補助事業「医療の質向上のための体制整備事業」に評価機構が正式採択され、医療の質向上のための具体的な取組の共有・普及、その活動を担う中核人材の養成、臨床指標の標準化、評価・分析支援等を通じて、医療の質向上のための体制を整備していきます。

事業計画に基づき、引き続き、医療の質、安全の向上に大きな貢献ができるよう、日々努力を積み重ねてまいります。

詳細は、評価機構のホームページをご覧ください。

<https://jqcqh.or.jp/about>

評価機構

NEWS LETTER

2019年7月1日発行
(奇数月1日発行)

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構 (略称：評価機構)
発行責任者：河北 博文
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビル
TEL：03-5217-2320 (代) / (編集：評価事業推進部企画課)
<https://jqcqh.or.jp/> e-mail: info@jqcqh.or.jp
本誌掲載記事の無断転載を禁じます